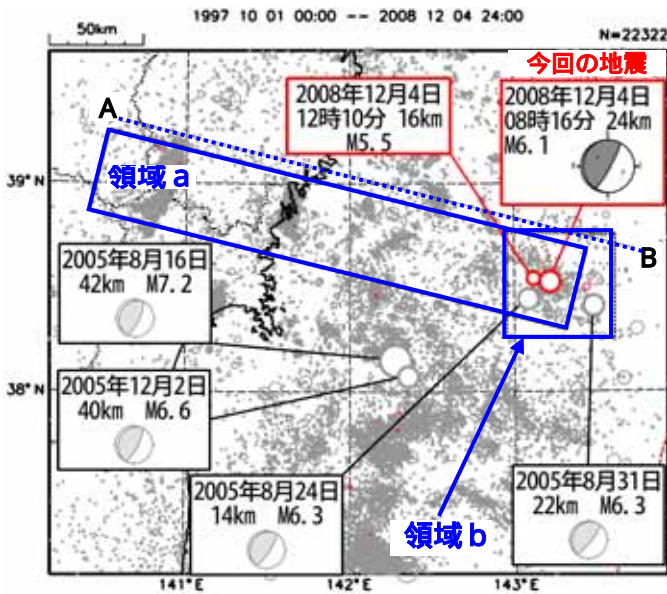


# 12月4日 三陸沖の地震

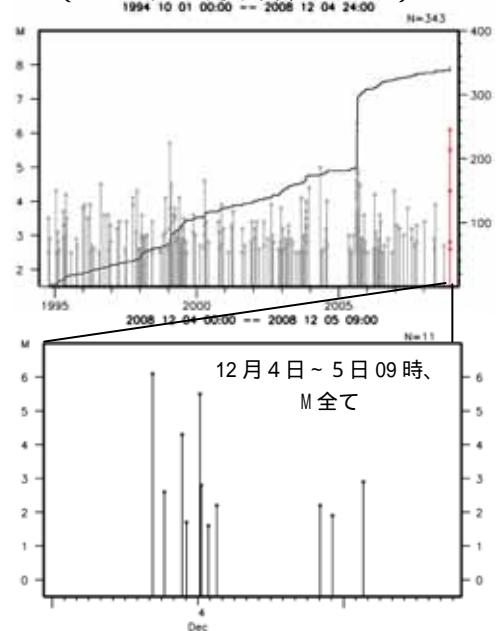
震央分布図(1997年10月以降、M 2.0、深さ150km 以浅) 発震機構はCMT解である



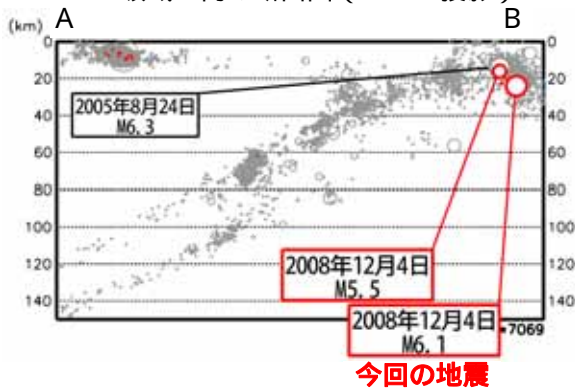
2008年12月4日08時16分に三陸沖でM6.1（最大震度3）の地震が発生した。この地震の発震機構は西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。余震は低調ながら続いており、最大は同日12時10分のM5.5（最大震度3）の地震である（5日12時現在）。

1994年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近（領域b）は、まとまった地震活動が見られるところで、最近では2005年8月24日と8月31日に、共にM6.3（最大震度3）の地震が発生している。

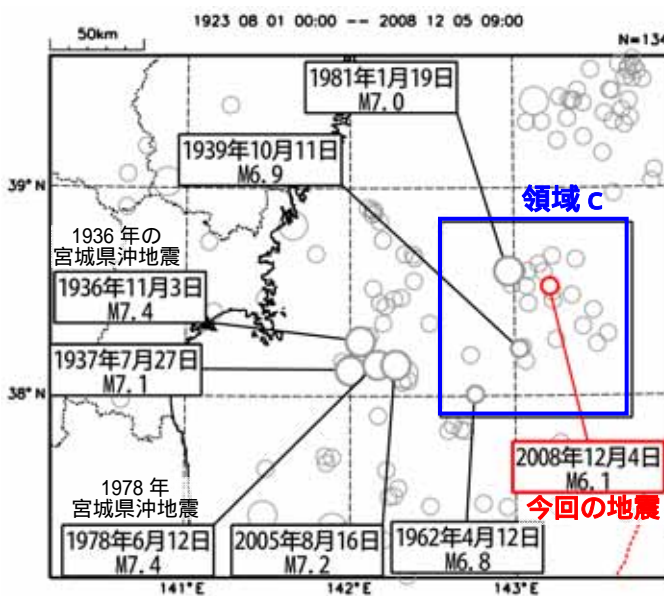
領域b内の地震活動経過図、回数積算図 (1994年10月以降、M 2.5)



領域a内の断面図 (A - B 投影)



震央分布図 (1923年8月以降、M 6.0、深さ150km 以浅)



1923年8月以降の活動を見ると、今回の地震の震央付近（領域c）では、M6を超える地震が度々発生しており、1981年1月19日のM7.0（最大震度4、釜石などで22cmの津波）の地震の前後でM6以上の地震が6回発生するなど、活発な地震活動が見られた。

領域c内の地震活動経過図

